

幻氷との遭遇

～知床沖に現れた白い幻に春の訪れを感じて～
星 弘之（北海道・東北蜃気楼研究会）

1.はじめに

約40年前、別海町尾岱沼で偶然にも太陽の蜃気楼に出会った。その後、何度か出会う幸運に恵まれた。知床半島反対側の斜里町にも何度と無く足を運び、蜃気楼を探したが出会うことは無かった。

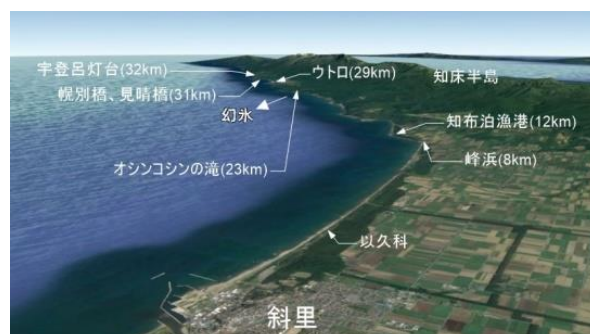
2002年以降、斜里町での蜃気楼情報が多くなり、今まで以上に注意して風景などを撮影していたが、見つめることは出来なかった。

知床蜃気楼・幻氷研究会が発足、観測を初めてから目撃情報数が格段に多くなった。今まで自分は何を見てきたのか、自分の目はただの節穴だったのか、悔やみ続けた。

今年、猪苗代湖が蜃気楼シーズンに入る前、斜里町での幻氷観測・撮影を計画、実行した。その結果、多くの貴重な経験と、初めての幻氷や、奇跡の蜃気楼7選（知床蜃気楼・幻氷研究会提唱）など、観測・撮影することが出来た。滞在中、3回見ることが出来た幻氷や、距離と高度により変化する、多様な蜃気楼を中心に紹介する。



北海道全図

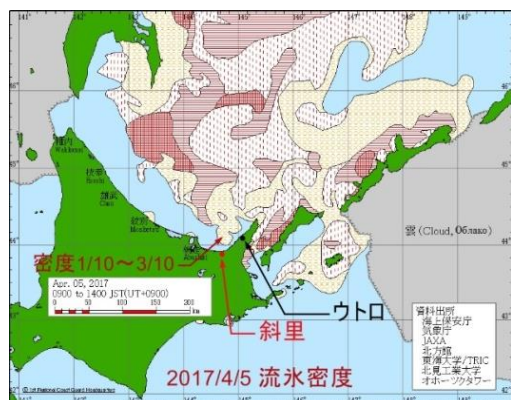


観測・撮影地(3/27)

2.幻氷との初めての出会い

幻氷は遠峯徹弥氏(湧別町)や、佐藤トモ子氏(知床蜃気楼・幻氷研究会)が、撮影した写真を見て内陸の湖には出ない蜃気楼なので、自分の目でも見たいと思っていた。

3月27日午後、北見工業大学の気象データ回収と機器メンテナンスに同行している時、突然の幻氷発生情報が入り情報元に近い場所へ移動、慌てて三脚、カメラを設置、何も分からず前方に見えた風景にピントを合わせシャッターを切った。



3/27 流水密度(1/10~3/10)



初めて見た幻氷(3/27-15:58)

3.2回目の幻氷との出会い（4月5日）

4月に入ってから天気予報を見ると4月5日、6日の両日、天候が安定していて気温が相当上昇するとのこと、この両日に賭ける事にし、それまでの間「日常生活の中に見られる幻氷」を撮影できる場所を網走からウトロ間の海岸や高台を探し、5日にはそれらの場所から観測・撮影した。



幌別橋(9:25)



知布泊漁港(10:57)



斜里橋(11:49)

4.3 回目の幻氷との出会い (4月6日)

早朝、斜里町以久科からウトロ見晴橋まで約40キロの海岸線を、流氷の状況を確認しながらウトロに向かった。ウトロでは流氷の奥行と広がりを確認するため、標高約100mの見晴橋(プユニ岬)より、沖合状況を確認、観測・撮影場所の幌別橋の中間(標高約18m)にカメラを設置、前日より約8m高い位置で幻氷の現れるのを待った。この日は前日同様、寒さを感じない穏やかな陽気、流氷が突然、幻氷に姿を変えた時、現れた白い幻に春の訪れを感じた瞬間であった。



幌別橋(10:28)



幌別橋(12:09)



ウトロ魚港(13:12)

5. 多様な蜃気楼



知床岬先端付近(2/28)

①海面付近では流氷が下位蜃気楼化②知床半島の先端は高い位置で上方反転カジキマグロの上顎のように変化している。



知床半島中央部付近(2/20)

①流氷、その上の②海面付近も伸び③宇登呂灯台付近の稜線と④中央付近の稜線も棘状に変化している。



宇登呂灯台から見晴橋(2/28)

①海面付近は下位だが②は伸び上がり更にその上の③も伸び複雑な構造の蜃気楼になっている。

6. おわりに

本州では見られない幻氷、流氷の蜃気楼、夜の蜃気楼や、距離や高さの違いで同一面に4つの蜃気楼像が現れたものなど、希少で多様な蜃気楼を見ることが出来、多くの収穫があった。

詳細な記録は取っていないが、滞在中おおよそ3日に1度は出ているように思えた。知床蜃気楼・幻氷研究会の佐藤トモ子氏が言うように「斜里町は蜃気楼の発生回数日本一」、2015年の特別講演会で大鐘卓哉氏が「北海道は蜃気楼の宝島ー多様な蜃気楼の世界」で講演されたがまさしくその通りであった。

北海道は美味しい食材と美しい風景の宝庫です、食べて見て、そして多様な蜃気楼に出会うことが出来ます。

皆さんもぜひ一度、斜里へ行かれてみてはいかがでしょうか。

※この発表要旨での**蜃気楼**とは上位蜃気楼(魚津での春型の蜃気楼)を指す。